

## 第 10 回 宇治市都市計画マスタープラン検討部会 議事録

日 時	令和 3 年 12 月 8 日 (水) 午後 2 時 00 分 ~ 午後 4 時 15 分
場 所	産業会館多目的ホール
出 席 委 員 ( 敬 称 略 )	部会長 多々納 裕一 職務代理者 森 正美 委員 岡田憲夫、山本直彦、小出純子、後藤正明
議 題	1. 地元意見交換の結果について 2. マスタープラン(部会最終案)について

### 会議概要

部 会 長	「地元意見交換の結果について」、「マスタープラン(部会最終案)について」事務局より説明を。
事 務 局	資料説明
部 会 長	ただいまの説明について意見・質問等あれば
委 員	<p>全体構想のところ、総合計画の「一人ひとりが輝き 伝統と新たな息吹を紡ぐまち・宇治」というスローガンを入れられて、それは 1 つの考え方だと思うんですけど、ただ整合性というのは必要になると思うので、これが後ろの方にも出てくればいいなと思って見ていたのですけれども、そこではあまり出てきてないですね。</p> <p>27 ページを見ていただいて、ここに似たような言葉があって「人と人がつながる宇治らしさが輝くまち」と、その次の 28 ページ「都市づくりの基本目標」のところ、これに対応してこの 4 つの目標になるとすると、ちょっとすわりが良くないなあと思うんです。このパートナーシップの所に書かれている「人と人がつながる宇治らしさが輝くまち」を目指してパートナーシップを築いていきたいとすると、パートナーシップの目標はこれでいいと思うのですが、後ろの都市づくりの基本目標のところはむしろ全体の目標を使われた方がよいのではないかと感じておりました、それを実現するために 4 つの基本目標と記載した方が、すわりがよいかなと思ったんですが、事務局いかがでしょうか。</p>
事 務 局	ここで書きました理念のテーマでございますけれど、宇治市全ての施策をまとめる形でこういう表現になっておりますので、今おっしゃられたように、基本目標と分かりにくくなってる点がございまして、基本目標を踏まえた上で、言葉を整理させていただきたいと思えます。
委 員	このマスタープランと総合計画が違う目標でいいとすれば、違う言葉はサブセットになってくると思うけども、そうされるのならば、その言葉をむしろ 3 - 1 のところに入れていただいて、その 3 - 1 のところに整合するものを 3 - 3 の頭に入れていただくという風にしていただいた方がよいと思えます。そこは多分とても大事なところなので、あんまり事務局にお任せしますと終わるのは良くないんですけど、具体的な修正案の考えはありますか。
事 務 局	案としてはいくつか考えておまして、少し都市計画の視点に落とし込んだ言葉というのを作っていかうと思ってまして、基本的にはまだじっくり来てないんですけど、「人と人がつながる宇治らしさが輝くまち」、ちょっと分かりにくいところがあるんですけど、「人を結び、伝統と未来を紡ぐまち宇治」とかですね。この基本目標を言葉にしようという今いろいろ考えているん

	<p>ですけど、なかなかまとまりきれていないのが実情でございます。</p>
委員	<p>あとに言った方が良いのではないかと。そうするとサブセットに聞こえるし、総合計画の方向性は変わってないし、それから先ほどのつながりで宇治らしさという、今書いてある基本理念に比べると、もう少し伝統だとか、あるいは将来的な産業、あるいは発展みたいなものも匂わせてる言葉になるので、その方がこの後ろの4つの基本目標から見たときに、しっくりくる言葉になった気がします。そこも含めて、方向性としては総合計画はこういう言葉を置いているが、もう1段書いてもらってから書いたらいいと思うんですけど、この都市計画マスタープランではその中の都市計画的な観点を重視して、つながりとか地域の発展とか、そんなことを念頭において、こういう都市づくりの基本理念を定めます、と書いていただいたらいいんだと思うんです。その上で、今度はそこを具体的にブレイクダウンするとこの4つになります、という風なストーリーでまとめていただいて、このパートナーシップのところの下に書いてるやつをどうするかというのは若干ありますが、これは別に無くてもいいかもしれない。その前の「変化に適應できる都市計画プロセス」とか色々他にもあるので、ここだけで繋がってるのが少し辛いかもしれないと思う。構造的なことで申し訳ないんですが、そういうところを若干検討頂ければと思います。</p>
委員	<p>先ほどご説明いただいたなかで、109ページの山間地域のこれからのテーマで、一つ増やしましたということで、「将来のまちの姿を共有し、住民によるまちづくり活動の支援」というのがありますが、ここだけ読んだときに、「まちの姿」と言った時、どこを指しているのかなと、まち全体を指しているように、ここだけ見たら見えたのですが、この地域の話ですよね。将来の地域の姿を共有してということですよね。であれば地域の方がいいかなと、そんなふうに思いました。まちづくりの活動と書いてますけど、山間地域のお話であるならば、それでいいのかなと思います。</p> <p>35ページの構想路線ですが、構想路線なのでこういう描き方されてるんだと思うんですが、具体的には1本は新名神の城陽スマートインターからこの茶色っぽい道路に繋がるんですよね、そこが分かりにくいなと思ったのと、もう2本、3本あるところも、どう繋がってくるのか、ネットの繋がり具合がわからない。分からないのか、描けないのか、そこらへん微妙ですけど、どう繋がるのかももう少しわかる方がいいかなと思いました。</p>
事務局	<p>新名神の城陽スマートインターチェンジというのが、以前から宇治木津線という構想路線がございまして、宇治市と木津を結ぶというもので、明確な線はなかったんですけど、今回防災上の観点から24号バイパスということで、今我々が描いている南側のところは国交省が24号バイパス、要は堤防道路ですので、現道の24号がその辺りの防災上の観点から、その南側のところをずっと繋いでいく事業を起しております。ただ、宇治市域はバイパスがありますので、国道で言いますと、城陽インターのところまでこれでネットができてしまうんです。ただ、新名神の波及効果をこの中宇治地域まで繋ぎたい、そして宇治橋を渡って京滋バイパスに繋いでいきたいという思いがあります。</p> <p>もう1つ色が薄くてわかりにくいところなんですけど、上の方図面の左の一番上のところですけど、こちら実は六地蔵のところの京都市道の外環状線、昔で言いますと、神足、今で言いますと、JRの長岡京を結ぶ、六地蔵神足線という構想路線がございまして、まずは</p>

	<p>全線が難しいところもございますので、外環状線から 24 号バイパスまで結ぶことができないかということを検討しているのが、ここに落ちている路線です。というのはこの六地蔵周辺でやはり渋滞が顕著に現れてますので、それを分散する意味での道路でございます。あと、その下のところの中ほどのものは、隠元橋を活用して東西軸を強化しようというところでございます、西の方に行きますと久御山のイオン、東の方で行きますと、大体宇治のユニチカの辺り、今の宇治槇島線という宇治市の市道が JR と交差している路線があるんですけど、それを結ぶような東西軸の強化というところを、上 2 つは以前から実はあることはあったんですけど、庁内で本当にこれを続けて要望していくのか、広域的なことですので、京都府さんの協力も必要になりますので、そういったところの整理をしていて、整理ができたので、上 2 つは復活をさせて、一番下のところは引き続き南北軸を宇治市も入れて強化をしていきたいというところで、これも入れ込んだところでございます。</p>
<p>委員</p>	<p>起終点が分かりにくいので、繋がりがあんなら矢印つけるとか。書けないだったら別なんですけど、わかっているのであれば描いていただく方がいいと思います。例えば一番上の路線も、このものづくり拠点に入って終わってるものやら、今のお話でしたら神足まで伸びていくんだったら、地域外に行ってるはずですよ。そこらへんがどっちなのかなと、ちょっと読みにくいので、描ける範囲でネットワークが見えるようにしていただければというふうに思いました。</p>
<p>委員</p>	<p>今回オープンハウスの意見を地区構想に反映させてるのがメインかなと思って見させていただいてます。地域から出た一つ一つのコメントにちゃんと対応されて、本編の方に、地域別構想に反映されているということで大変ご苦労さまでした。後半にアンケート結果がついてますけど、個別の意見ももちろん、ちゃんと吸い上げていけば、全体性は確保されると思うんですが、アンケート結果も、ある程度まとまった反応と捉えられるので、このあたりも、少し具体的に反映させたいんじゃないかなと思いつつ、事前説明をしていただいたとき思っていました。今日出てきたら地域別構想の修正版を見させていただいたところ、アンケート結果の中で重要と考えられるテーマが何票と書いてありますけど、得票順にソートされていてよかったと思います。そしてもう一つ、シールアンケートがありますけれど、これがどういう風に反映されているのかと思いつつ探して、内容的には強み弱みで言うと、地域別構想で各地域の現状と課題のところに関係すると思うので、おそらく大丈夫だと思うんですけど、一応軽くこのあたりの各地域の現状と課題と照らし合わせて、クロスチェックはされた方がいいかなと思ってたんですが、どうなんでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>シールアンケートについても課題のところとチェックはしておりますので、ちょうど右側にも空きがございますので、クロスチェックの結果みたいなものも、少しコメントを足せたらと思っております。確かにこれがどうなったかっていうのが、この表では分かりにくいところはございますので、そのあたりは整理させていただきたいと思っております。</p>
<p>委員</p>	<p>例えば六地蔵の所を見ていただいて、地域別構想で地域の現状のところを見ますと、特に交通のところ、シールアンケートではポジティブなこと書いてあるんです。「京都大阪に近く通勤通学が容易である」には一杯シールが貼られた、でも、それに相当するようところが、特徴のところには若干そういうに見えるけど、地域の現状のところでは、交通をみると、渋滞は</p>

	<p>するし、いろんな整備途中だし、そんな風に見えるんですね。現状にも、できれば、そういうポジティブなことも入れたい方がいいんじゃないかと思います。ネガティブなことをいっぱい課題で書いているのはいいんですけど、課題はその下にまとめてあるので、現状のところ、できればシールアンケートとか、そういうことで出てきた強みみたいなもの、あるいは弱みも入りきれれば入れてもいいと思うんですが、少し付け足していただいて、ニュートラルにしたらどうかと思いますがいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>利便性の中に鉄道と車の交通とが混在してとがございまして、鉄道というところでは、かなりメリットのある便利な地域でありますので、こういったご意見も現状のところには足りていきたいと思えます。</p>
委員	<p>意見交換会で、皆さんそれぞれ課題意識持って出席していただいて、参加させていただいて良かったと思うんですけども、一つ一つのこと以外に、皆さんは市から出てきている提案とか現状把握をすごくしづらいのかなと思えました。こういう風に計画があるだけけれども、じゃあ現状がどうなって、どのように市としては分析して、結果どうなんだっていうご意見もあったと思うんです。そのところが、この検討部会でも現状どうなんだっていう話はしてきたと思うんですけども、そこが市民の方に伝わっていないのかなと思えました。そこをお伝えしないと結構ストンと落ちていかないのかなと感じました。それをどうやって、ここに表現するかっていうのが難しいですよ。ただ、さきほどの議論のように、ポジティブな事はこういう所がいいんだよということも、もちろん落として、さらに課題もあるという書き方にして、ものすごく問題ばかりとなると、えらいところへ住んでいるって思ってしまうんで、そうじゃなくってこんな素晴らしいところがいっぱいこれだけある、なおかつこんな問題もまだある、というような書き方がいいかなと感じました。</p>
委員	<p>今の話を聞いて思ったのは、もし資料が記述してるものがあるならば、これ本編はいいんですよ、でもよくあるのはそれに対して資料編が別途ある場合もある。市町村によって違うと思いますが、そういうところを上手に整理されて、実際に見たいなと思った人が後から見れたり、後から分析できたりするようになるのは良いと思うので、今じゃなくてもいいんですけども、こういうものを作っていくに際して、役に立つなと思ったような資料とかを、今この検討の経緯の中で集められたものの範囲で結構なんですけど、そういったものをまとめていただくといいかなと思ったりしたんですけどもいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>今後都計審に上げていくときに、やはりここでご議論いただいた資料というのは公表していかなければいけないと思っておりますので、ちょっと見やすいように整理をして、その辺りをホームページ等で、データも含めてアップしていきたいとは思っております。</p>
委員	<p>意見交換会では、移動の問題についての意見がすごくたくさん出たんだなあという印象がありました。全体構想の 51 ページの公共交通とか道路のところがたくさん書き込みがされてる部分があってですね。先ほど総合計画との関連性と言うか、矛盾が無いようにということをおっしゃったんですけども、公共交通に関しても今別途計画を作っていらっしゃると思うんですけども、都市計画のスパンが 20 年と考えた時に、道路網の話で周辺との接続という話があったんですけど、内部での移動の問題は、ある意味もう限界にきているというか、経済的に公共交通っていうのはそもそも採算性っていう意味では、もう難しいものになっている。だ</p>

	<p>からモビリティマネジメントにより過度な自動車利用から公共交通の適切な利用へのシフトを促すなど書いてあるんですけど、51 ページの一番上のところですね。「過度」に今自動車が利用されてるのかとか、公共交通の適切な利用を、つまり、自動車から乗り換えてもらうっていう施策が、本当に宇治に合ってるのかとか考えた時、実現性において無理があるような感じがしている。だから逆に言うと、もうちょっと思い切って、代替交通手段とまで言わないですけども、そういうところが、どう書き込めるのかなと。バス路線の維持とか公共交通の維持っていうのは当然大きなインフラとして守っていくべきだという大きな方向性はあるんですけども、もう年々バス路線、鉄道すら色々な地域で廃線になっている様な状況を踏まえたとき、宇治市は20年のスパンを見越してどう考えているのかが一番気になる。</p>
<p>事務局</p>	<p>移動のお話というのは市民の方からいつもいただいておりまして、今まで我々が使う数字であれば800m 徒歩圏であるとか1km 徒歩圏ですよっていうことで説明をしたんですけども、その移動がしんどくなってこられてる方がいらっしゃるっていうのが一つですね、また、鉄道に乗る人が減ってきているっていうのも実はございます。数字的なところで見ますと、自動車での依存度は平成2年度で見ると29%でしたが、平成22年のパーソントリップで見ると、36%ということで、だんだん自動車の依存度が高くなってきている。これは高齢の方が増えてきているとか、働く方が減ってきてるっていうのもあるのかもと思いますけれど、宇治市は比較的この鉄道が発達している町の割には依存度が高いところがあるのかなと。そういった意味で、モビリティマネジメントで、子供達に、マイカー依存じゃなくて、公共交通を利用することによるメリットとかいうのも、勉強の中で教えていただきながら進めていこうっていうのもやっております。そういった様々な今後の交通の施策を組み立てていこうということで検討しているのが、宇治市公共交通体系基本計画というのがありまして、その中の基本方針というのが4つ立てております。</p> <p>まずは公共交通、既存の公共交通の利用促進をしましょうというのがベースです。2つ目が既存公共交通を基盤として、新たな移動ニーズの対応ということで、今申し上げた近くでもなかなか鉄道駅まで行けない方もいらっしゃるの、そのそれぞれのニーズを踏まえて支援の方法を考えましょうということが2つ目です。もう1つは移動される方々をもう少し増やそう、という目的をまちづくりと一体となって考えていこうということで、産業であったり駅前の開発であったりとかですねそういったところと一体的に考えていこうということで、移動を掘り起こそうっていうところが3つ目でございます。4つ目は、国の動向とかを見なければならぬのですが、次世代の交通サービスの状況を見ていこうということで、それをこの51ページの公共交通のところ言葉は並べておりますけれども、その4つの目標の順番をずっと書いてるところでございます。ですので、なかなかまだ答えは見つかっていないんですけど、来年度から新たな移動ニーズへの勉強というか、検討を始められたというところで、そういったところの予算等の調整をしているところでございます。</p>
<p>委員</p>	<p>51ページの1番のところ、前半部分は悪くないけど後半部分が古臭い。何が言いたいかというと、モビリティマネジメントとか、それからこの総合交通体系とか、公共交通の維持とかこういう議論は昔からあるし、このモビリティマネジメントの話で言うと、おそらく20年ぐらいは経ってると思うんですけども。まあ15年ぐらい経っているかな。20年経ってないかも</p>

	<p>しれない。そんな感じのイメージになってくる。それをずっと言っていていいかという議論ですね。その間に何があったかと言うと、実は公共自転車とかあるいは電動スクーターとか、日本ではあまりできてないかもしれないけど、乗り合いとかそういったものが出てきてるんですよ。</p> <p>準公共的な、本当の公共交通っていうよりは、もう少し、公共が少し関与するけども、基本的に個人で移動します、あるいは民間サービスだけど、それを公共的に個人のものじゃなくて使えるようなサービスがあります、みたいなことが全部合わせて、今頃使うような言葉が本当はあるんだろうと思うんですよ。そういうようなところの言葉に直した方がより分かり易いんじゃないかということじゃないかなと思う。</p>
委員	<p>そういう意味では、新たな移動ニーズへの対応という辺りに、そのあたりを込めてらっしゃるのかなと思うんですけども、おっしゃるように後半の部分が、車から公共交通への乗り換えとか言うスキームを書いてらっしゃるんですけど、そこで移動の欠落が起きてるわけでは多分なくて、もう少しそういう隙間交通の部分の工夫が必要なので、それがまちづくりの中で、宇治市さんは支え合いの事業とか、ある種オンデマンドとかもやってらっしゃる部分もあるので、そういう仕組みも含めてやってるのに、なんで公共交通って書かないと色々厳しくなっちゃうのかなと、行間を読み切れない部分がある。</p>
委員	<p>要するに、「技術革新やICTの導入による多様化するニーズへの対応の検討を進めます」といいわけですよ。おそらく、そこの中にいろんなさっきのような施策が入ってくる。その前の既存の公共交通の利用促進をもう1回下に書いてるから少しくどくなる。従来のそういうものを進めてきて、それは続けて頑張ってるけども、という逆順だったらまだ読んで分かる。「バス路線の維持やモビリティマネジメントによる公共交通の利用促進などの対応はもとより」とか書いて、既存の公共交通の利用促進などに基づくとか、実はこれにかかることは、ここだけなので、このところにスッと入るぐらいにまとめてもらうのだったらいいのかもしれない。順番を逆にしたらもっと印象は変わります。</p>
委員	<p>31ページもバスの公共交通の利用への転換を図ります、と書いてるので、そこで止まってしまってるので、申し訳ないんですけど、さっきの51ページの議論を少し踏まえた形で、特にこのところは、少しご検討いただけるとありがたいという確認です。</p>
委員	<p>観光地だということを考えると、特区とか公道ではない部分を設定して、例えばそこだと電動3輪車か何か貸し出しがあって、そこだったら乗れますとか、そんなのがあったって全然いいはずなんですよ。そういったところ公共交通って、今の公共交通もそういうのも含めて考えてもらったらいいと思うので、少し夢のある話みたいところにこれが繋がるといいよなと思います。たとえば、宇治橋通りを、前もあったけど歩行者天国化する。その中だけだったらスクーターで行ったり来たりできるかもしれないとか、そういうことをいろんなこと考えられるんです。そういう話を将来向けていろいろ議論していける素材、キーとなるメッセージがここにあったら良いということです。</p>
委員	<p>都市マスなのでそこを書き込んでおかないと、今のようなそのユニークな取り組みをしようとした時の前提が外されてしまうので結構重要なと思う。そこはすごくこれからドラスティックに変わらざるを得ない部分なんじゃないかと思っていて、実際観光の話をされました</p>

	<p>けど、公共交通で基本的に採算とれてるところは、観光と抱き合わせじゃなかったら、赤字に転落するわけです。だから宇治市はその可能性っていうのが若干あるって意味では、住民の移動の足だけではないっていうところに可能性があるんで、このオープンハウスの中の意見でも、例えば観光政策との連携であったり、それから、公共施設等の相互管理計画との連携だったり、他の物との関係のブリッジのかけ方が少し全体の中でのトーンが弱いというか、それがすごい気になったので、ちょっと斜めの見方かもしれないんですけども、都市マスで多分そういう土台が、すごく重要ななと思いました。</p>
<p>事務局</p>	<p>交通体系基本計画の検討の中でも同じようなご意見というのが、実は出ておりまして、そういったところが反映はできているのですが、マスタープランの中で、この行の中で収めてしまったら、我々の表現不足でしっかり伝えられてないところがありましたので、今いただいたご意見も踏まえて、少し文章の作り込みを変えていきたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>公共交通の議論を別のところでされてるということとは、行ったり、来たりが本当は必要なんですけども、順序とか色んなものがあって、必ずしもこのタイミングと合わないという、悩ましいことありますけど、もう少し「高らかに」、「高らかな雰囲気」が必要と思う。特に一番最初のところには。その関連でひとつ申し上げると、ここに例えば「過度な自動車利用」と書いていますけど、「過度」も地域によって何が過度かは変わってくる。</p> <p>これから自動車も電気自動車とかいろんな形が変わってくると、その過度という意味合いも変わって来るか分からない。地域性とか技術革新とか、これ実は背後の問題としてサスナビリティの問題をどう考えるかというのが、すべてのところに本当は関わって来る。そういう意味での多様性とか弱者の配慮とか、いろいろな問題が背後にあって、今後の交通体系のあり方は、かなり宇治としても変わらざるをえないだろうということを、なんとなく予感させる部分をちょっと入れといた方がいいだろうと思います。表現はまだ工夫していただいたらいいですけど。</p> <p>その中には、補完的な、あるいは新しい準公共的な交通モードというか、これからまたいろいろ工夫される、その中には例えば、新しい電動型自転車とか色んな活用もあると思いますが、そういう意味での、公共交通の中に補完的な準公共的な交通手段とかモードというのも多分これから考えられるだろう。それからこれも話に出ましたけど、ある程度地区ごとの、特徴を踏まえた導入の仕方が必要になるとすると、そこには多分、もう1つある種のルール作りというか、例えばどういう制度を入れるとか、どういうルールでみんなが使うとか、ある地区ではそういうルールでやることに合意が得られるとか、そういった問題も今後かなり重要なテーマになって来るんじゃないかと考えます。そうするとこの一番最初のこのところは、難しいことはよく分かりますが、そういう意味合いが入ってくるように工夫いただいたらいいかなというふうに思いました。</p> <p>総合計画の文言をどう受けるかということに関して、まだこなれていないというか、一番最初の25ページの、「1人ひとりが輝き 伝統と新たな息吹を紡ぐまち・宇治」と3-1の一番最後に入れてますが、これは総合計画のビジョンというかスローガンですが、ただこれらが都市づくりの基本理念というところに、こういう風に入れてしまうと、これが都市づくりの基本理念というふうになってる、もちろん先ほどの話して、実はこれをもう一段こなしやつが本</p>

	<p>来の都市づくりの基本理念になる。私はむしろ総合計画の理念との整合性を受けて、そういうものを枕に入れて、それでこの「一人ひとりが輝く」というのが宇治市全体の総合計画の枠組みとして精神として出ています、これを我々は受けます、じゃあ次に、都市づくりの基本理念は何なのか、ということで、次にもう1段こなししたものを入れて、そして受けていくというようにすると、先ほどの話に出ていた、これはどんな形で翻訳されるのかというのが、今入っているんだけど、1回これをこう受けますという風なことを、やった方がわかりやすいんじゃないかなと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>意見交換会に入って、地域の一般の皆さんは、まちづくりというのは都市計画以上のものだと考えておられるから、いろんな話が出てくるのは仕方がない。その上で都市計画に落とし込めるのはここまでですよ、しかし、いただいたご意見は、いろんな意味で活かしますよ、というところを丁寧に返さないと、聞きっぱなしじゃないかっていう話にどうしてもなってしまう。実際ワークショップの時に、そういう話はある程度やり取りがあったと言いますが、そのところをやりっぱなしのような印象を与えないためにどうするかということがあります。ただこれは、マスタープランそのものとは必ずしも直接かかわらないので、これはむしろ市として、都市計画として、受け方の姿勢をどこかで1回表明していただいた方がいいんじゃないかと思う。つまりこれをやることで、どんなことを皆さんが学んだかということ、その上で、都市計画でできないことに関しては、どんな連携を取りながらどうしていくのかということが、実は必要だということはよくわかった。</p> <p>それからもう1つ、結局これはこれから何度も直しながらやっていくので、診断が必要で、診断を元の手直していくと、そこへ至るために、実はこの前のようなやり方をもう一度、色んな形で工夫して入れていかないと、成り立たないと思う。だからそういう意味では、今回はそのための一種のリハーサルじゃないですけども、まあウォーミングアップとして、それは地域の人にとってもウォーミングアップで、ああこんなものができるんだと、こういう機会を、いろんな形で設けていただくというのがあるのだろう。もう1つ、いつも思うのですが、都市計画だけでできない部分もあるので、そういう集まりには、関連部局も参加していただくとか、いろんな得られた知見は別の形でやり取りするというようなことを、市の内部で、仕組みとして整えていただきたいなと思います。</p> <p>これは今度の時でも結構なんですけど、そこでいろいろやったけど、入れきれなかった問題とか、いろいろ提示された事をどうするのか、ということの問いは、委員の皆さんとかいろんな方から出てくるとは思いますけど、同時に皆さんの方で、市としてこれをそういう形で今後活かしていきたいと、これは一体何だったのかということ、少し語っていただくというんな意味で次に繋がる場が整っていくのかなと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>都市計画マスタープランは宇治市の中でもかなり大きな計画の1つであります。都市計画審議会に市長が出席しているのもその表れかと思っております。ただ一方で、今までこの都市計画マスタープランに実行性が持てなかったというのは、これに施策がぶら下がっていないというところがあると我々は思っております。施策がぶら下がっているのが総合計画になるので、総合計画との連携というところに表現の重点を置いております。第6次総合計画を、今作ってるんですけど、マスタープランも含めて横串を入れられるような仕組みを、今検討</p>



	<p>をしているところですので、その中では大きな市の方針に対して、色々な計画を並べて、この施策に対してはここが関連するっていうのはしっかり表現していこうと思っております。まだ総合計画は今検討しているところでございますので、もう少し我々も意見を言いながらまとめられたらなと思っております。</p>
<p>委員</p>	<p>交通の 49 ページを見ると一番上のところが最初に道路の話が書いてあって、次に公共交通の話が書いてます。次の 51 ページ見ると公共交通が先に来てて 2 番目に道路が来てて、図面は 50 ページ先に道路が来てて、52 ページに公共交通が来てて、なんとなく公共交通の方を先に持っていきながら、交通体系考えましようと言っているように思えるんですが、なんとなく順番がそれぞれ変わってるような気がするので、少し整理されたいかがでしょうかというのが一点気になったところです。</p> <p>それからもう 1 つ、先ほど参考資料集を作ったらどうかという話とも絡むのかもしれませんが、地域の現況が分かりにくいとの話がありましたが、過去の部会の資料でも、かなり細かく地域別の現況と課題ということで、いろんな図やらグラフをつくられてますから、そのへんを活用して参考資料つくられるのか、たとえば各地域の「地域の特徴」の下あたりに、地域別の人口がどう変化してきているとか、あるいは土地利用が市域全体と比べて、こんな特徴があるとか簡単に入る範囲で追加してもいいんじゃないのか、まあ無くてもいいんですけど、分かり易く、例えば小倉地域って一体何人住んでるのか、これくらいの規模感の地域ですよというのが分かるだけでも、少しリアルにとらえやすいんじゃないかなと思いました。</p>
<p>委員</p>	<p>31 ページの全体構想の、基本目標のその 4、「地域と地域が相互に連携し支え合う都市づくり」、ここのところで、委員のみなさんに最終確認しておきたいと思いますが、地域と地域が相互に連携し支え合うことを可能にする都市基盤づくりというのが 1 つあって、そのために交通の範囲内で歩くことが容易になるような環境整備をするべきだと。しかしもう一方で、地域どうしが連携する仕組みそのものが、逆にそういうこと促すというのも本来多分あるんじゃないかと私も思っていて、それが都市計画マスタープランを超えた話だから触れないのか、それとも地域間連携そのものを促進するような何か工夫というのが、この中に入りうるのか。そのあたりについて一度議論したい。</p> <p>これを素直にずっと読んでいくと、かなり地域と地域が相互に連携し支え合う都市基盤づくりだと思います。もちろん都市基盤づくりが都市計画の要だといえればそういうことです。ただ交流し合える仕組み自身も一種のこれからの社会システムなので、それが相互に促し合っただけという事は可能になるとするならば、例えば、この基本方針の一番最初の のところに、「各地域が連携・補完し」というこれ自身が可能になるような仕組みとかも、この の中に含まれるようなニュアンスを出してもいいんじゃないのかなと思わないこともない。委員の皆さんで何かご意見等あれば、とりあえず一回そのところをケアしておきたい。なぜ私がこういうことを言うかという、山間地域では、沢山の方が来られましたけど、都市計画から外れたところであるのだけでも、ある意味一番都市計画に関心があるというか、今の都市計画でカバーできない補完的な問題を全てあそこが抱えているようなところがある、それが一つ、それからもうひとつは、もう少し、宇治市全体の市民としての交流とか連携があれば、山間地域の人たちのいろんなアイデアとか、あるいは困りごと、少し糸口が見えるようなことになるん</p>

	<p>ではないかなというふうに思った。そうは言うもの、結構地域間ごとに連携して、なにかみんなでもやりましょうと言っても、そんなに簡単にできる話でもないの、多少悩ましいことでもあるんですが、要はそういう地域と地域が相互に連携し、というところに、もう少しソフトな社会システムを想定した意味合いとしてこれを考えるのか、それは今後のむしろ関連的なテーマだとして、今の記述でそのままでもいいのかということについて、皆様のご意見を伺いたいなと思います。</p>
委員	<p>地域の皆さんの連携は必要だと思っていて、そんなしっかりした連携の仕組みは今すぐ作れないと思うし、ただ交流していくことは大事だと思うし、交流のもうひとつ前に、その地域でどんなことが起こってるのかを、先に知らないと分からない。どんな風にどんな問題があって、どんな風に思っているかというのを、まず知ってもらうことが先だという風に思うので、さっき資料編も作っていただけという話もありましたけれども、ここで今まで検討してきた経過も踏まえ、オープンハウスとか意見交換会で出てきた意見とかもこんな人があったという事を情報発信していったら、資料編で残すだけじゃなくって、どんどん発信していくような仕組みを作ってもらいたいかなという風に思いました。知らないと分かり合えないかなと思うので、お知らせしていくことはすごい大事な事かなというふうに思いました。</p>
委員	<p>具体的な文案の提案をします。例えばこの ところが、「各地域が連携補完し、まちの資源を共有できる都市づくりを目指します」というのは、これは別に交通網だけの話ではなくて、全体の話なんです。ただ中身は交通のネットワークの話になるので、例えばなんですけど、「その各地域が持っている役割を活かした上で、今ある資源を有効に活かしつつ市民で共有することにより、将来につながる都市づくりを進めます。」にする。例えば、その交通のところはそのまま活かして、まちとして連携補完し、点の後に、補完するだけでなく、例えばまちづくりの活動における協働とか連携を促進します、とかという風に入れると、交通も連携するし、都市計画課がまさにまちづくり支援もやっているの、そういう活動も支援します、というふうに入るんじゃないかと思ったんですけどいかがでしょうか。</p>
委員	<p>私は、ただ、都市計画計画マスタープランの話で言うならば、確かに各地域が連携して、それぞれのいいものを使って、地域に住んでおられる方が、それぞれ交流するというのは非常にいいことだと思いますが、それをやるために都市計画としては、先ほど言われた通り、基盤づくりとしては、どうしたって道路、鉄道とかそういう話になってくるように思うんです。だから、仕組み作りを作るためのベースを作るというようなことにならざるを得ないんじゃないのかなと私は思います。この都市マスという性格を考えると、そういうふうに思います。もちろん前段でその地域連携をやっていく仕組みの話を入れ込むのはいいと思いますけども、最後はそこにならざるを得ないんじゃないのかなと思います。</p>
委員	<p>景観法とかつくられた先生たちの書かれたものを読んでいると、本当は都市計画法とまるごと置き換えたかった、とおっしゃっていて、景観法を読んでいると、住民とかNPOとか地域の方々を積極的に支援して景観団体みたいなグループとして認定して支援していくことは、はっきり謳われているので、その辺にキャッチアップしてやっていくのはいいのかなというふうには思っております。</p>

<p>委員</p>	<p>連携をする議論はそもそも何でこれ書いているかと言ったら、都市機能が縮退していく中で、全ての都市核みたいなのに、同じような機能を持たせることができないと、それぞれ特色があるところで、何らかのものを持っておいてもらって、それを相互に利用しあいましょう、というのが元々だと思うんです。そう考えると、それをやるためにはやっぱり交通体系だとなる、ここまでが素直なところで、そこから先にどこがどういう役割を果たすべきかとか、あなたのところでこれをしてきて、私達はこれをするっていう、コミットメントみたいな話をそれぞれで一緒にやっていくようなことをするのかと言われると、そういうことあってもいいとは思いますが、それをここで考えるべきなのかというところから分からない気もしてはいたんですが、多分お互いが分かっていると交流もできないので、知ってもらうことが先決だとか、あるいは困りごとをどういうふうにして、解決するかとか、そういう議論は多分大事で、それを支援するのは、都市計画マスタープランの中の、少なくともパートナーシップの地域づくりの観点では、やっていくことだろうと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>地域と地域が相互に連携し支え合う都市づくりとはどういうことなのかと言った時、実は二重性の問題が、本当はあるということが一つ。それから、支え合う、相互に連携し合うためには、それぞれ地域がまずきちんとして、魅力持ってる、それで個性を持たないと関係自身が意味を持たないという意味合いで言えば、本当はもう1つ地域地域に焦点を当てた、地域別構想が意味を持つということが1つある。</p> <p>もう一方で、もうここだけに押し込められる話じゃなくて、結局、このマスタープラン自身が問うている1つの、しかもそれは、人に優しくだとか、輝くとかに関係してるけども、結局まちがどうだということを、市民なりがどう理解し、またそこに自分たちの役割を見つけられるようなそういう交流基盤とか、情報基盤とか、そういうもの自身が一種の社会基盤で、今後はそういうものがセットで繋がって初めてここで言うような形で、マスタープランも可能になるだろうと思います。ですから、繰り返しいろいろ皆さんおっしゃってるように、いろんな、地域の情報とかが出てくれば、できるだけそれをみんなで共有できるようにして、それから地域ごとに地域の人達がどんどんそういうことにも情報提供していくというような、そういう仕組みがセットであれば、まさにこれが具現化するんだろうなっていう風に思います。</p> <p>これから以後点検していく時に、今回のようなワークショップを含めてですけど、場合によっては複数の地域がお互いに、よその地域のことを含めて学び合うとか、そういうことをやることで、地域と地域の相互の関係みたいなものが、よりみんなで共有できる。だから、市民がこういう形のものに参加するように仕組みを工夫していただくことで、対応できるんじゃないかなというふうに思いました。ですから、先ほどご提案頂いたの31ページの修正を入れていただいて、基本的にはこのままでいいと思います。</p>

委員	<p>やはり情報発信の機会が足りないですね、地域の方々からしたら。今までだと宇治市政だよりとか言ってもページ数が限られてるからそんな簡単に入れれませんという議論だったんですけど、よく考えてみたら今なんとでもなりますよね。そう思って宇治市のウェブサイトみてどう思うかという、あんまり何も載ってないですね。もうちょっとそういう都市計画のページとかね、まちづくりのページとかね、そんなようなことも若干考えてあげるだけでも違ってくるのかなと思ったりもしますけど。そんなところが交流のひとつの基盤みたいな話で受け取っていきましょうということもちょっと書いてもいいかもしれませんが。どうですかね、なんかお考えありますか。</p>
事務局	<p>今回は総合計画が、市長任期に合わせて4年サイクルで検証をするというのを今のところは考えておりますので、そういったタイミングで一緒にそういう発信ができるのか、SNSとかも今活用しておりますので、そういったところでも発信できないのかとか、ちょっと広く考えております。</p>
委員	<p>それでいいんですよ。ただ、地域の方の声を拾って、この地域版のマスタープランの進捗状況なのか、そこになるもっと前の状況でもいいんですが、要するに課題をシェアするとかでもいいから、地域の方の声を聞きながら、都市計画に活かしていくためのページみたいなものができましたって言うと、こういうのもやっていますって感じ見えるので、そういうようなことも考えて、市の方で一生懸命全部作って出しますじゃなくていいけども、情報だけでもらって、入れられるようなことも多少、あるいはそこはボランティアでも市民の方にやっていただけるかもしれないし、色々工夫していただいた方がいいんじゃないかなと思います。</p>
委員	<p>最近市政だよりも結構 QR コードとか載せて、この前の別の部署のPubComは、スペースが余っているのに1つもQRコードがなかったんで、ホームページを見てくださいしか書いてなくて、もったいなかった。今1人1人が発信者になれる時代なので、そういう意味では、例えば地域の紹介をしてくれたら、そのリンクだけをその宇治市のHPに載せる、そうすると興味のある人は、なんとか地区の活動っていうのを見て、ああこんなことやってるんだ、なんならそれがYouTubeの動画でもよかったりとかして、そうすると紙媒体から立体的な情報空間っていうのが多分生まれるっていうのは結構簡単にできちゃうので。日常的な情報の発信と共有はすごく必要。今動き始めてると思っていて、もうちょっと一押しかなと思います。</p>
委員	<p>実際そのそれぞれの地域がそういう状況にあるかどうかかわかんないから、すぐそういう熟度があるかどうか分かりませんが、ただこれを契機にそういうところ作ってみました、ということがあってもそれはいいんじゃないかなと思います。</p> <p>もしそれがうまく動きだしたら、それぞれのところから困りごととか課題とかいろいろな情報発信がそこから出てきて、市としても、そこから色んな議論を拾って、次のマスタープランとか総合計画に活かすこともできる。そういうような物も、こういうところから課題として出てるんだなってことだと思うんです。そういうのも併せてご検討いただいて、今後活かしていただければと思います。</p>
部長	<p>最終的な取りまとめについて、今日が最後ですので、事務局と相談しまして修正させていただいて、都市計画審議会に部会最終案を報告させていただきたいと思います。</p>